

報告文献別一覧表(平成17年9月1日～平成17年12月31日)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された(2004年事例)。このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
2	A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
3	B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
4	B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
5	B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
6	B型肝炎	Transfusion.2005;45	プール血漿に対してのNAT検査の有用性について、FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検査法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対策効果もわずかであり、NATの実施は現時点ではミニプール及び個別ドナーに対して任意に実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。
7	B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。
8	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
9	B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の選及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
10	C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
11	C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。

No.	感染症(PT)	出典	概要
12	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
13	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
14	C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005 年10月6-9日	2003年3月~4月にかけてペインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。
15	C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ないが、感染経路は輸血が一番多い。発展途上国は安全な血液供給、先進国で安全な注射の実施および薬物使用者を減らすことに主眼が置かれるべきである。
16	C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
17	C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
18	C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
19	E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
20	E型肝炎	Hepato Research 2005;31:178-83	野生のイノシシ肉を食したヒトのE型肝炎の報告事例。
21	E型肝炎	J of Virology 2003;84:2351-7	北海道で2001年-03年に散発的に発生した、急性ないし劇症E型肝炎の感染症例10例のうち9例について調理された豚レバーを食べていた。検出されたウイルスのあるものは、感染患者から分離されたウイルスの塩基配列との相同性が認められた。
22	E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
23	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005;52(8S):922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染及び重症化の危険因子を検討した結果。
24	HIV	CDR Weekly 2005;15(21)	2005年の1月~3月に新規HIV感染診断2230件が報告された。1982年にサーベイランスが開始されて以来英国で報告されているHIV診断総数は70783件になった。現在までに21280例がAIDSと診断され、そのうち13145例が死亡。2004年に報告されたHIV診断6403件のうち輸血および血液因子製剤を介しての可能性のある診断数は男性7例女性8例。

No.	感染症(PT)	出典	概要
25	HIV	Clin Med J 2005;118(9):720-4	中国のあるコミュニティで1990年代半ばに行われた血液収集活動によってHIV感染が現在母子感染を起こしている。2000年～01年の調査では、子供224人中5%が陽性で、抗体陽転率は2.5%/年であった。
26	HIV	Infection Diseases Weekly Report Japan2005年第16週	今期間(H17年1月3日～4月3日)における法定報告に基づく新規のHIV感染者報告数は207件で前年同時期の新規報告件数(150件)より増加している。
27	HIV感染、C型 肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
28	HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
29	ウイルス感染	PNAS 2005;102(36):12891-6	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
30	ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
31	ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1 084-8	SENウイルスはエンベロープを持たない一本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
32	ウイルス感染	日本周産期・新生児 医学会雑誌2005;41: 54-8	エコーウイルス2型によりウイルス関連血球貧食症候群が発症し死亡した事例。
33	ウエストナイ ルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の断片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
34	ウエストナイ ルウイルス	CDC Available form	2005年8月-9月のニューヨーク、ペンシルバニアでのWNV感染に関連するQA。
35	ウエストナイ ルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294- 1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
36	ウエストナイ ルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けた4名中3名がWNVに感染したと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体およびIgG抗体は陽性を示したがWNV-RNAは陰性であった。
37	ウエストナイ ルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
38	ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2156-60	1997年の洪水の後、チェコ共和国のLanzhotから10kmの範囲で採集された雌のCulex pipiens (アカイエカ)をホモジネートしたものを混ぜて授乳したマウスの頭蓋内からWNVと深く関係があり、且つ今までに類のないフラビウイルス株(97-103)の抗原性や、マウスの特異的毒性のみならず、完璧なゲノム配列と系統的分析について判明した結果について。
39	ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(8):1294-6	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
40	ウエストナイルウイルス	J of Heart and Lung Transplantation 2005;24(6):774-6	心臓移植を受けた直後にWNV脳炎を発症した患者の報告。著しい免疫抑制状態の患者が移植あるいは、輸血を受ける際にはWNVが伝播する可能性のあることを認識すべきである。
41	ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
42	ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによって「ロスベクティブ」に調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
43	ウエストナイルウイルス	Transfusion.2005;45(4):480-86	2002年、米国でウエストナイルウイルスが流行、輸血によって感染した初の症例が報告された。血液センターと共同で1468本の冷凍血漿をウエストナイル熱の多発地域から選択的に回収し酵素免疫測定、核酸増幅試験により調査した。結果、輸血によるWNVの感染の可能性が示唆された。
44	ウエストナイルウイルス	厚生労働省 報道発表資料(2005年10月3日)	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
45	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	水疱性口内炎、ウマ&ウシ-米国 情報源:米国農務省新聞発表。 2005年10月4日、ニューヨーク州Plum Islandの外来性動物疾患診断研究所は、ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で、初の水疱性口内炎New Jersey株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは、発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は、2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。
46	エボラ出血	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	出血熱-中国(内モンゴル自治区) 情報源:新華社通信Xinhua News Agency上のNorthern New Times記事, 6月28日。 内モンゴル自治区保健局は2005年6月27日、今年自治区全域にわたる感染性出血熱発生率に関する状況を報告した。2005年1月1日から6月3日の間に内モンゴル自治区全域で総計187名の出血熱患者が報告されている。昨年同じ時期に比較して発生率は192.18%増加した。2名の死亡患者があり、2004年同じ時期(1名死亡)より100%増加している。
47	狂犬病ウイルス	ProMed20050709-0070(News Agency Regunum 7月7日)	ロシアAstrakhan地域で、飼育ハムスターから狂犬病ウイルスが検出された。2005年1月から5月までに4名死亡している。
48	狂犬病ウイルス	The New England J of Medicine 2005;352(11):1103	臓器ドナーから移植レシピエント4例への狂犬病ウイルスの感染の報告。4名とも原因不明の脳症で死亡した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
49	結核	ProMed20050717-0010(Saukvallyy com7月15日)	米国 ミソタ州におけるウシ結核の報告。州当局は900頭のウシを処分する見込みと発表。1971年以来のウシ結核発生。
50	コロナウイルス感染	European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14	中国において、SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について。RT-PCR検出で陰性になるまで平均13日であった。陰性となるまで個人環境の管理が重要となる。
51	コロナウイルス感染	J of Medical Virology 2005;75:455-62	オーストラリアでの重症呼吸器感染症の原因がコロナウイルスHCov-NL63to関連があるかもしれない。
52	コロナウイルス感染	Biologicals 2005;33:95-9	SARSコロナウイルスについて免疫グロブリン製剤でのS/D処理によるウイルス不活化能力の評価に関するドイツの報告。S/D処理により、処理後1分で検出限界以下まで不活化されることが示された。
53	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年中国でSARSの流行があった地域において、ヒトと接触の機会のある6種類の家畜242頭からPCR法による検査をした結果、72頭のみが陽性となり、うち1頭がウイルスも分離できた。分離されたウイルス株と既に中国本土から分離されている株とを比較したところ一部ヌクレオチド置換等からヒトを起源としたものである可能性が示唆された。SARS-CoVのヒト-ブタ伝播の可能性が考えられる。
54	口蹄疫	OIEホームページ (http://www.fao.oie/ems/upload/191450/fmd_china_empres.pdf)	中国で発生したアジア1型口蹄疫感染が拡大し、近隣国への拡大が懸念されている。
55	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2225-7	2001年、オランダの農場にて、異型の鼠チフス菌(DT104A変異株)の、非経口の動物-動物間及び動物-ヒト間の接触感染が示唆された。
56	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(6):859-67	世界29カ国における多剤耐性SalmonellaTyphimurium感染の発生率、また多剤耐性を決定するファジータイプ104(DT104)の増加について調査したところ過去20年間で実質的に多くの国で増加傾向にあった。1991年~2001年の期間で抗生物質耐性またはファジータイプの調査を行った結果、キノロン耐性S. Typhimuriumの発生が増加していた。
57	サルモネラ	J of Protection 2005;68(2):273-6	2001年夏、ドイツでサルモネラ属ミュンヘン感染が発生した。原因としてブタ肉が疑われた。ブタ肉の汚染が一連の生産工程の初期に起こったことが遡及調査からわかった。
58	細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
59	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月~2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
60	人畜共通感染症	Emerging Infectious Diseases 2005;11(7):1028-35	アジア初めてのSimian foamy virus(サル泡沫状ウイルス)の霊長類からヒトへの感染伝播の報告。(2000年7月調査)

No.	感染症(PT)	出典	概要
61	人畜共通感染症	J Clinical Microbiology 2005;43(3):1142-8	デンマークの回虫症患者について、AFLP法および核rDNAの内部転写スパー(ITS)領域のPCR-RFLP法によって、ヒトからの回虫とブタからの回虫を比較した。結果、ヒトの回虫感染は家畜ブタからの回虫感染であった。よって、回虫症はデンマークにおいては人獣共通感染症として考慮しなければならない。
62	人畜共通感染症	J of Infection 2005;51:91-7	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者からタニ媒介性キザル森林熱に非常に類似した新種のウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などをともなう。致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤキの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱となるかもしれない。
63	水疱性口内炎	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
64	Dengue 熱	CDC/MMWR Weekly 2005;54(22):556-8	米国居住者で熱帯、亜熱帯地方を旅行した後、2001年~04年で臨床症状及び発症時期からみて Dengue 熱疑いの366名の報告。
65	Dengue 熱	ProMed20050624-0030(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは8例の Dengue 熱輸入患者を確認した。患者と触した者には病気の兆候はない。
66	Dengue 熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、マルチニーク島、マレーシアで Dengue 熱が流行している。死亡者も多数でている。
67	電撃性紫斑病	Clinical Infectious Diseases 2005;40:941-7	2000年~04年、スーパー抗原毒性ショック症候群毒素-1(TSST-1)、レンサ球菌性エンテロキシン血清型B(SEB)もしくはレンサ球菌性エンテロキシン血清型C(SEC)を高レベルで生産する黄色ブドウ球菌が直接関連する電撃性紫斑病の初めての5症例について。
68	トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_64.HTM#Sec2)	2005年6月27日に日本で低病原性鳥インフルエンザ(H5N2)が流行した報告。
69	トリインフルエンザ	Nature 2005;435:390-1	政府の検査によって感染の存在が確認されたので高病原性のトリインフルエンザウイルスがインドネシアの豚に感染しているという懸念が増大している。ある地域ではH5N1型ウイルスが無症候状態でブタ集団の半分以上に感染している。ブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株の変異を促す攪拌槽の役割をもつのではないかと危惧する研究者もいる。
70	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352:1839-42	世界規模でのインフルエンザ流行への警告。最悪のシナリオ回避のための方策などについて。
71	トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060(New Scientist com news service,14 April 2005)	2005年4月、AirLangga大学でインドネシアのブタから鳥インフルエンザを同定。ブタはヒトのインフルエンザも鳥のインフルエンザにも感染するため、ブタがヒトでの汎流行インフルエンザ株への変異を危惧する報告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
72	トリインフルエンザ	CDC HomePage 2005年11月7日	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパでH5N1型鳥インフルエンザの動物、ヒトにおける進展状況。
73	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2189-91	インフルエンザA(H5N1)ウイルスが大流行中の2003年12月、タイの動物園でトラ、ヒョウが高熱と呼吸器の症状で死亡した。これはH5N1型の宿主域が拡大され、ネコ科動物に対して強い病原性を持つようになったことを示唆するかもしれない。
74	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(11):699-701	2004年10月、タイでの2度目の鳥インフルエンザ(H5N1)の大流行。生のニワトリの死体の餌を中止した後も発病が確認されたことになる。トラートラ間の水平伝播による感染が疑われる。
75	トリインフルエンザ	FAO news Apr 25 2005	2005年3月15日、北朝鮮においてトリインフルエンザ流行のため、数千羽のニワトリが死亡したと報道された。その後、4月に国連食料農業機構は北朝鮮で流行したトリインフルエンザは制圧されたと発表し、本流行のウイルスはH7型株によるものでニワトリに対しては重篤な疾患を引き起こすが、アジアの他の地域で流行しているH5N1型株との直接的な関係はないことを示した。
76	トリインフルエンザ	J of Infectious Disease 2005;192:1318-22	低病原性鳥インフルエンザ(H7N3)がトリからヒトへ感染する可能性があることを示唆する報告。1999～2003年にイタリア北部の延べ6地域で起きた家禽のインフルエンザ(H7N1)とLPAI H7N3の流行中又は後に飼育所の作業員983名の血液中の抗体を調査した結果、2001年までは抗体は見つからなかったが2002年-03年には185名中7名(約4%)に抗体が見られた。
77	トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドカンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。
78	トリインフルエンザ	OIE DISEASE INFORMATION 27 MAY 2005 VOL 18-21	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
79	トリインフルエンザ	OIE Disease INFORMATION, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	2005年6月、動物衛生研究所は、茨城県で国内初のトリインフルエンザH5N2型を同定した。発生源又は感染源は特定されていないが、野鳥との接触による可能性が疑われる。
80	トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM#Sec2)	インドネシア等東アジア地域でトリインフルエンザH5N1型の感染が蔓延しており、ブタへの感染が認められ、さらにヒトへの感染も生じ、死者まで出ている。
81	トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。米国の研究者による予備的な研究結果から、ブタ同士ではH5N1ウイルスの感染伝播しないことが示唆された。
82	トリインフルエンザ	ProMed20050514-0060	2005年4月からのインドネシアにおけるブタの鳥インフルエンザウイルス感染について、中国の科学者は、動物が本当に感染したのか単に皮膚や鼻腔にウイルスの痕跡が残っていただけなのか懐疑的を述べている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
83	トリインフルエンザ	ProMed20050515-060	2005年5月、食料農業機構(FAO)の鳥インフルエンザ疾患緊急情報によると、2005年4月のインドネシアの豚の鳥インフルエンザウイルス感染につき北朝鮮では、H7型による感染が拡大しつつあると報告。
84	トリインフルエンザ	ProMed20050725-0020(Reuters alertnet 7月24日)	2005年7月25日、インドネシア当局は同国初の鳥インフルエンザ犠牲者となった同一家族の3名が居住する町に近い村の鳥インフルエンザに感染したブタを処分した。
85	トリインフルエンザ	The Jakarta Post Jul 26 2005	インドネシア政府は、ジャカルタ郊外でH5N1型鳥インフルエンザにより死亡した家族は鳥の糞に含まれる鳥インフルエンザウイルスによって感染した可能性があると発表。
86	トリインフルエンザ	Virus research 2005;109:181-190	デンマークにおいてまがもからインフルエンザウイルス亜種としてH5N7が確認された。ヒトへの感染は確認されていない。
87	トリインフルエンザ	WHO inter-country Consultation Influenza A/H5N1 in Humans in Asia Manila May 6-7 2005	H5N1型鳥インフルエンザウイルスがヒトに対する感染性をより高めている可能性が示唆される報告。2005年1月～4月にベトナム北部でH5N1型感染が発生した。しかし、本ウイルスは2004年にアジアの他の地域、及びベトナム南部で発生したものといくつかの点で相違があった。北部では南部と比べて、群発数の増加、群発内の最初と最後の症例間隔の延長、無症候性感染の発現、感染年齢層の拡大、及び死亡例の減少などがあった。
88	トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月26日	2005年6月26日、農林水産省は、弱毒タイプと考えられる高病原性トリインフルエンザ(H5N2亜型)が茨城県の養鶏場で確認されたと発表。その後、同県および埼玉県にある養鶏場でトリインフルエンザウイルスH5亜型に対する抗体陽性が確認されている。
89	トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月9日	2005年6月、米国ニューヨーク州のアヒル飼育農場における低病原性鳥インフルエンザ(H7N2型)の発生を受け、日本当局は同州からの家畜家畜肉等の輸入を2005年6月9日つけで一時停止した。当該輸入停止措置については、当該州における同病の清浄性が確認されるまでの間、継続する。
90	ニパウイルス	ハンガラディッシュ国際下痢疾患研究センターHP (ICDDR, B)2004年	2004年2月から4月にバングラディッシュでのニパウイルスのヒト-ヒト感染伝播についてバングラディッシュ国際下痢性疾患センター(ICDDR)からの報告。36名が感染確定、27名が死亡。患者に1回曝露しただけで死亡した例も2例ある。
91	日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	日本脳炎-中国:疑い 情報源:Gansu Daily / Xinhua, 6月28日。 中国北西部甘肅省の都市天水Tianshui市小児における最近の脳炎流行は、市感染制御予防センター長官Wang氏によれば、一種のウイルス性脳炎である[Moderator注:検査室診断結果のない純粋な推測である]。2005年6月24日に開催された地方保健当局による記者会見で、Wang氏は3月4日から6月23日までに天水Tianshui市内2つの病院では、発熱と頭痛のため年令1才から13才の小児を収容したことを明らかにした。
92	日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	日本脳炎-中国:疑い 情報源:South China Morning Postウェブサイト, 香港, 6月3日。 中国甘肅省と広西壮族自治区で2件のウイルス性脳炎流行が報告され、100名以上の小児が感染し、2名の死亡が報告された。この状況は全国規模での警報を発するほどには至らないが、中国全土が日本脳炎流行のピークの季節に当たるため、今回の流行により保健当局者は警戒を強めている。香港保健局広報官は2005年6月22日、流行調査を文書で要請したと述べた。 < http://news.monstersandcriti
93	パルボウイルス	CID 2005;41	パルボウイルスが急速には排出されにくいことを示唆するスウェーデンの報告。
94	パルボウイルス	Transfusion complications.2005;45;1003-10	S/D処理をした高純度のAHF製剤においてもB19は存在することを示唆する報告。